

# 個人情報の削除を持ちかける詐欺にご注意!

**事例** 市職員を名乗る者から「あなたの個人情報が3社の名簿に勝手に登録されている。削除するには別の人を代わりに登録する必要があります」と電話があり、相談先としてボランティア団体を紹介された。

## トラブル回避のポイント

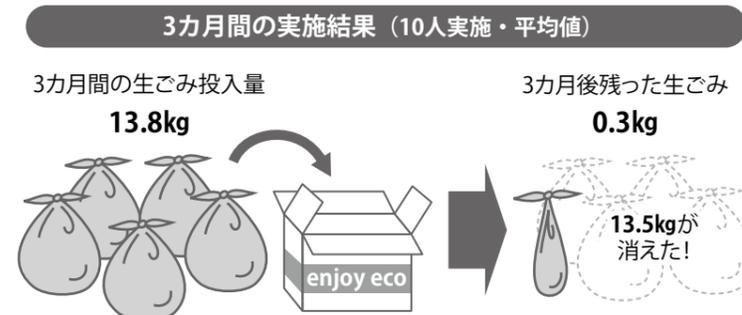
- ◆公的機関の職員をかたり電話を掛けてきて、最終的にはお金をだまし取る詐欺です。複数の人物が巧妙に役割を分担する手口も見られます。
- ◆公的機関から「個人情報を削除してあげる」などと連絡することはありません。
- ◆個人情報の削除を持ちかける電話が掛かってきた場合は、相手にせずすぐに電話を切りましょう。



梅ちゃん 第18回 絵:モリ

# ごみナビ vol.4 段ボールコンポストで”生ごみ減量”にチャレンジ!

段ボールコンポストは、省コスト・省スペースで手軽に取り組めるのが魅力の生ごみ処理機です。今回は実際の取り組み結果をお伝えします。



13.5kgの生ごみが消えました。これは生ごみが土の中の微生物によって水分と二酸化炭素に分解されたためです。土は堆肥として花や野菜づくりに利用できます。市では、町内会などのグループを対象に、段ボールコンポストやごみ出しマナーなどについての環境出前講座を行っています。段ボールコンポストの作り方は市ホームページでも紹介しています。

平成21年同月比 約6%減



## 実施者の声

- 毎日混ぜるなど手間はかかりますが、慣れるとだんだん楽しくなりました。
- 野菜くずなどを自家処理することができ、腐敗するものがごみ箱から無くなったことで、ごみ箱の臭いも少なくなりました。

問い合わせ 環境推進課 ☎24・8069



# みまっし、きくまっし 小松の方言

加藤和夫 ●金沢大学人間社会学域教授・日本語学

## 小松方言の語源 その30

「溝」の方言ドボンの語源  
年度が改まり、本連載も今月から18年目に入ります。今後ともご愛読下さい。

これからもしばらくは小松方言の語源を取り上げていきたいと思います。今後は、かつての中央語(京都語、上方語)に由来するかどうか不明のものも含めて見ていくことにします。

今回は、本連載の197回(2014年8月号)で取り上げたエンゾ(古語「井溝」から)と同じように、道路脇の「溝」側溝を指す方言であるドボンについて考えます。

## ドボンはドボスからの変化

日本テレビ系の人気番組「秘密のケンミンshow

W」の2014年5月15日の放送で、金沢方言で「溝」を指して使われるドボスが取り上げられ、番組中でその語源について筆者がコメントしたことがあります。

金沢市では、県外の女性に聞かれると誤解されそうなのドボスのほか、代表的な言い方にドボスドボン、ドボソなどがありますが、小松ではドボンが一般的です。これらの言い方は、『日本方言大辞典』(小学館)によれば、石川県のほぼ全域と、加賀地方に隣接する富山県西部のごく一部に分布するようで、今のところ、かつての中央語にこれらと繋がりそうな語が見つかっていませんので、石川県に特有の方言と言っておくことにします。

語源的には、金沢の舞台用語に、役者の顔が見えにくい花道の外側の席を指す「どぼす」という言葉があったこと(筆者監修の『新垣張りまっし金沢ことば』87ページ参照)、明治初年成立とされる『加賀なまり』という方言集に「どぼす、どすぼ」の見出しで「悪水溝ヲ此ク云フコト 他方へ通セヌ東京ニテハ(ドボ)ト云」とあることから、既に江戸時代後期には金沢(加賀地方)で「溝」を指す「どぼす」が使われていたことが分かります。「どぼす」の「ぼ」と「す」が交替した形と思われる「どすぼ」は聞かれません。

舞台用語のドボスが先か、「溝」を指すドボスが先かは、はっきりしないものの、金沢あたりのドボスドボン、小松のドボソは、いずれもドボスの発音が変化したものだろうと考えています。中でも、小松のドボンと金沢のドボスは、元のドボスが共通語「どぼ」の発音に引かれて変化した「類音牽引」と呼ばれる現象によって生まれた形だろうと思えます。

## 歴史の舞台裏

### もう一つあった!? 利常画像

京都の芳春院といえ、かつて大河ドラマ「利家とまつ」で注目を浴びた、まつ(戒名が芳春院が建立した大徳寺塔頭の一つです。ここに前田家三代の利常画像が所蔵されていると、かねてより知られており、現存する利常の肖像が那谷寺の所有する一点のみであったことから、この度の「美術工藝編」の発刊に伴い、調査に乗り出しました。

この芳春院所有の画像の作成年代や筆者の分かる手掛かりがないか、詳細に調べましたが、画面には、それを記す筆記はなく、保管する桐箱に書簡が残されているのに気付きました。

この書簡は、前田利嗣(十五代当主)の家令(前田家の会計管理者)の加藤恒が、芳春院住職菅廣州に宛てたもので、文中には「利常肖像ノ画幅御譲り受け申シ模寫」とあり、読み解けば、元は芳春院にあった利常画像を前田家に譲り、前田家はその複製品を作った後、芳春院に贈呈したこと、またその年代が、明治28年に複製されたことが分かりました。

現在、原本の所在は、前田育徳会に伝来するところが突き止められ、その年代や筆者について調査中です。二つ目の画像の発見に興味があるところでは、



前田利常画像 (芳春院所蔵)

生涯学習課市史編纂担当 ☎24・8274